

国労本部電送No.159	発信日	発信	責任者	受領者
	2024年3月6日	企画部		

闘争指示第51号

2024年3月6日

エリア本部
各 闘争委員長 殿
地方本部

国鉄労働組合
中央闘争委員長 松川 聡

2024年春闘回答指定日に向けた闘いの展開について

国労は、2024年春闘要求獲得に向け、去る2月13日、各社一斉に「2024年度新賃金要求」及び「労働条件改善要求」について申し入れ、第92回定期全国大会で確立したスト権行使の準備のため、厚労省と中労委に対して労調法第37条にもとづく「争議行為に関する通知」の手続きを行うとともに、第194回拡大中央委員会決定を踏まえ、会社ごとの団体交渉を粘り強く継続し、中央戦術委員会での議論を重ねながら、要求実現に向けた闘いに全力を傾注してきた。

昨年から、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行し、行動宣言が解除されて経済活動も徐々に回復しているものの、長引く物価高騰のなかで消費は冷え込み、労働者の実質賃金は減り続けている。

こうした情勢のなかで、国労は、2024年春闘の取り組みの中心に大幅賃上げ獲得と職場における労働条件の改善、JRの安全・安定輸送の確立と必要な要員の確保を要求の柱に据え、JR各社に対しては、定期昇給の完全実施と持続的なベアの有額回答を求めながら、非正規雇用労働者の処遇改善をはじめ、すべての働く者の「格差是正」と暮らしの「底上げ」「底支え」を求め、不退転の決意で取り組みに全力をあげてきた。

とりわけ、今春闘においては各級機関の奮闘により、情報通信アプリ「TUNAG」を最大限活用し、分会集会や職場集会、常駐体制、オルグなどを通して職場段階から組織強化・拡大の態勢をつくりあげ、その結節点として各地方機関とリモートで結んだ昨日の『2024春闘勝利！国労中央総決起集会』は全国から結集した組合員が会場を埋め尽くして成功裡に開催することができた。

加えて、国労中央総行動の一環として取り組んだ各政党ならびに国会議員への要請行動では、今春闘において大幅賃上げと労働条件改善を求める国労の取り組みに理解が示され、喫緊の課題であるJR北海道・四国・貨物への持続可能な支援策の確立およびJR九州の安定経営に向けた助成策の継続、安全・安定輸送確立のための抜本的対策、地域公共交通の維持・活性化など、関係政党との連携を

密にしながら構造矛盾の解決に全力をあげていくことが確認できた。

また、この間、貨物職場において他労組組合員にも呼びかけて取り組んだ「社員の切実な要求の実現をめざす署名」も全国で多くの社員の賛同を得ながら現在、精力的に取り組みが進められているところである。

中央執行委員会は、こうした闘いの成果と到達点をあらためて確認し、2024年春闘勝利に向け、各エリアにおける交渉や取り組みを調整しながら、春闘を取り巻く情勢や他産別の動向を冷静に見極め、交渉窓口である各エリア本部を中心に統一した闘いを指導する本部としての責務を果たすことを意思統一した。

しかるに全機関は回答指定日までの残された間、全社共に定期昇給の完全実施と有額回答を引き出すため、さらに粘り強い交渉を軸とした運動を積極的に展開するとともに、労働基本権に保障されたストライキ行使をも辞さぬ構えを持ちつつ、引き続き職場・地域から果敢な闘いを縦横無尽に展開し、組合員一人ひとりが主体となった春闘を構築しながら、最大かつ喫緊の課題である組織拡大に全力をあげて奮起することを要請する。その上に立って、以下の通り、回答指定日まで2024年春闘勝利に向けた闘いを強化することを指示するので、各級機関は万全の闘争体制の確立をはかること。

《闘争指示》

1. 本部及び各エリア本部は3月13日（水）を基本とした回答指定日に向けて団体交渉を最大限強化し、要求実現に向けた取り組みを強化する。
2. 各級機関は、全社とも定期昇給の完全実施を柱に有額回答を引き出すため、ベア・ゼロを許さず、労働条件の改悪に反対して全組合員が参加する春闘を職場から積み上げる。
3. 他産別や単産の仲間との共闘・連帯を強め、グループ会社の賃金・労働条件改善や非正規社員やパートタイム・派遣労働者の正社員化など格差是正の取り組みと地域春闘を活性化させるために全力を傾注する。
4. 各級機関は、情報発信アプリ「TUNAG」を最大限活用しながら、創意工夫した取り組みを通じて意思統一を深め、職場から分会活動の活性化を図ると共に組織強化・拡大に全力をあげる。
5. 各社の回答内容によっては、交渉窓口であるエリア本部等を中心に会社に対する抗議の取り組みや再申入れなどを行い、会社・業種間を超えた全国統一闘争として職場に依拠した粘り強い闘いを展開する。

以 上